

JMS NOTES



第56期 事業のご報告

2020年4月1日～2021年3月31日

(証券コード 7702)

目次	01	連結財務ハイライト	11	セグメント情報
	02	ごあいさつ	12	システム別売上高
	03	トピックス	13	財務諸表
	06	JMS PREMIUM REPORT グローバル体制の強化 [韓国メディカル・サプライ]	14	会社情報

JMS

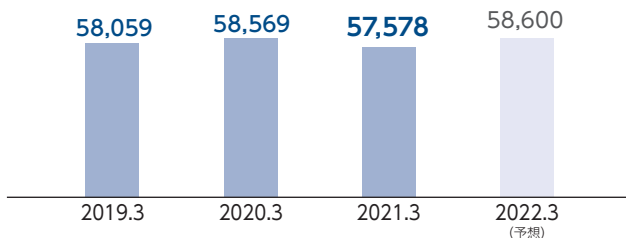
人と医療のあいだに…

連結財務ハイライト

売上高

575億78百万円

(百万円)



経常利益

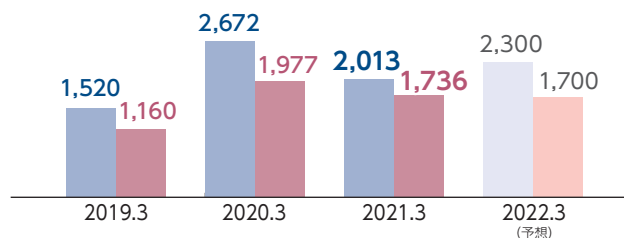
親会社株主に帰属する当期純利益

20億13百万円

17億36百万円

(百万円)

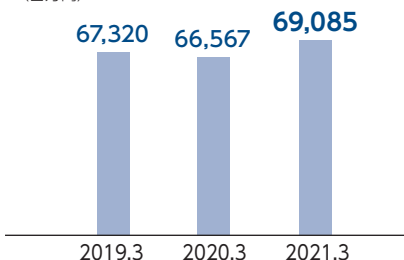
経常利益
親会社株主に帰属する当期純利益



総資産

690億85百万円

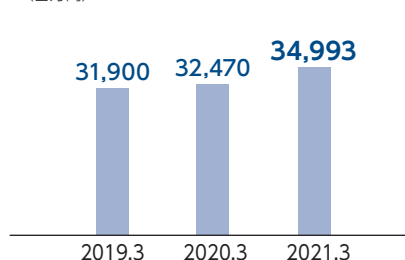
(百万円)



純資産

349億93百万円

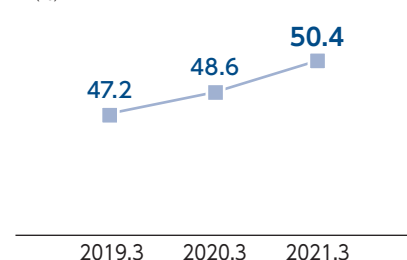
(百万円)



自己資本比率

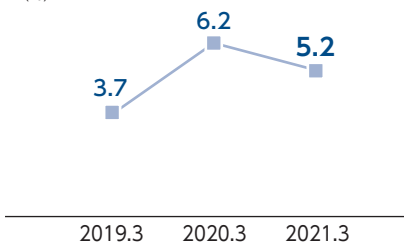
50.4%

(%)



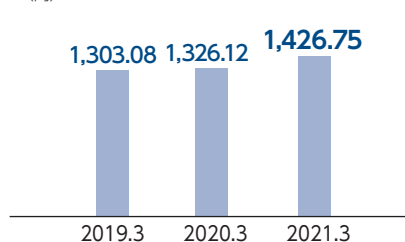
自己資本当期純利益率 (ROE) 5.2%

(%)



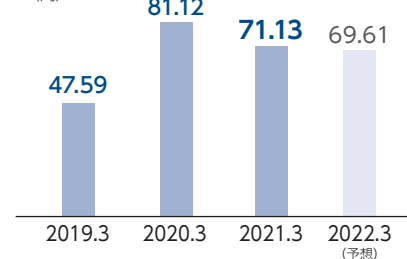
1株当たり純資産 1,426円75銭

(円)



1株当たり当期純利益 71円13銭

(円)



【見直しに関する注意事項】上記予想は、翌連結会計年度以降も新型コロナウイルス感染症による影響が一定程度は残ると仮定して算出しております。

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、中国や米国等でワクチン接種が進む一方、感染力の高い変異株により感染拡大が止まらず、日本をはじめ各地でいまだ猛威を振るっております。罹患された方々とご家族、関係者の皆様にお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また、医療の最前線で献身的な活動を今もなお続けておられる医療従事者の方々に、深く感謝申し上げます。

ここに、当社第56期(2020年4月1日から2021年3月31日まで)のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、国内では薬剤調製・投与クロードシステム「ネオシールド」が引き続き販売を伸ばしたほか、中国向け血液透析装置の販売が増加したものの、新型コロナウイルス感染症に起因する外来患者の受診控え、採血者数の減

少等の影響を受け、国内では輸液セット、海外では成分献血用回路の販売が減少しました。

この結果、売上高は、前連結会計年度に比べ9億90百万円減少の575億78百万円(前連結会計年度比1.7%減)となりました。

利益につきましては、活動自粛に伴い販売費は減少したものの、減収影響に加え商品仕入単価の上昇により、営業利益は21億27百万円(前連結会計年度比8.1%減)となりました。また、持分法投資利益の減少や為替差損の計上により、経常利益は20億13百万円(前連結会計年度比24.6%減)となり、法人税等を加減した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は17億36百万円(前連結会計年度比12.2%減)となりました。

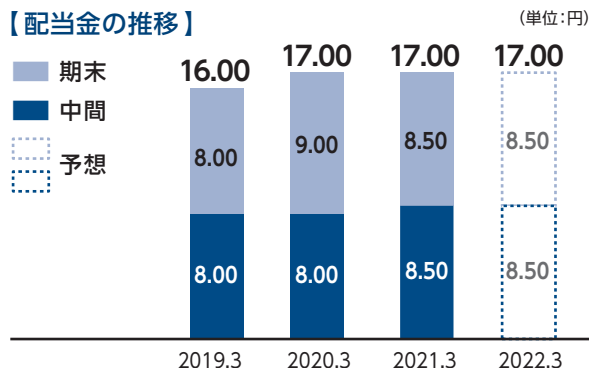
期末配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、1株につき8.5円とさせていただきます。これにより年間配当金は中間配当金(1株につき8.5円)と合わせまして1株につき17円となります。

当社は、新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束に向けて、効率的なワクチン接種ができるよう開発したシリンジの供給体制を整えるほか、円滑な集団接種や感染拡大防止に貢献する製品の迅速かつ安定的な供給を目指して取り組んでまいります。

株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
奥窪 宏章

2021年6月



心臓外科事業の製品ポートフォリオを強化

ゲティンゲ社と相互製品供給契約を締結

当社は、急性期治療分野のグローバルヘルスケアカンパニーであるゲティンゲグループ・ジャパン株式会社と相互製品供給契約を締結し、2021年1月1日から取り扱いを開始しました。

ゲティンゲ社は、体外循環関連ソリューションにおいて豊富な製品群と高い競争力を有し、中でも人工肺「Quadrox-i(クアドロックス アイ)」は世界的に広く使用されています。

今回の締結により、当社が病院ごとに設計した人工心肺用回路にゲティンゲ社の人工肺等をあらかじめ組み込んだプレコネクティング回路※を供給することで、医療現場の負担が軽減できます。また、これを契機として、心臓外科事業の製品ポートフォリオを強化してまいります。

※プレコネクティング回路：人工心肺回路に人工肺や貯血槽などの医療機器をあらかじめ組み込んだ回路

当社のプレコネクティング回路に、ゲティンゲ社の人工心肺機器を組み込んだ製品



ワクチン用シリンジを開発

薬液ロスを低減し、効率的な接種が可能に

当社では国の要請を受け、2020年9月より新型コロナウイルスワクチンを接種するためのシリンジ(注射器)と注射針を製造しています。このたび新たに、効率的に接種できるシリンジを開発しました。

シリンジ本体の先端部内径を小さくすることでデッドス

ペース(残留部分)を減らし、薬液のロスを低減。ファイザー製ワクチンの場合、1瓶から6回分の採取が可能です。また、さらにデッドスペースが小さい針埋込型は、7回分採取できることを社内試験で確認しています。6月をめどに供給体制を整え、量産を開始する予定です。

	シリンジ	針埋込型シリンジ
新製品	<p>ローデッドスペース</p>	<p>針の長さを変更</p>
従来製品		

※新製品は識別するためにライトグリーンカラーを採用

心電図波形が40秒で得られる

コンパクトな携帯型心電計「myBeat ホーム ECG」

2020年10月19日から医療機関向けに、携帯型心電計「myBeat ホーム ECG」の販売を開始しました。

両手に収まるほどコンパクト。測定時間は約40秒と短く、ベッドに横になったり、胸や手首、足首などに電極を貼り付けたりといった測定前準備は不要です。測定結果は心電図波形として測定終了と同時に自動印刷されます。

患者さんや医療従事者の負担が小さいため、より多くの方が心電図検査を受けられるようになると期待されます。

※myBeatはユニオンツール株式会社が所有する日本における登録商標です。



myBeat ホーム ECG

低流量、高精度での投与管理が可能

経腸栄養用シリンジポンプ「EN-SP50」

経腸栄養療法では、口から栄養を摂取することが難しい患者さんに、鼻から管を通したり、おなかに穴を開けたりして胃や腸へ栄養を投与します。その際、病状や使用する栄養剤に応じた適切な流量や速度を保つために使用されるのが、経腸栄養用ポンプです。

2021年3月25日から販売を開始した経腸栄養用ポンプ「EN-SP50」は、栄養剤を低流量で精度よく投与できる、国内初のシリンジポンプ型。注意深い調整が求められる小児集中治療室をはじめ、さまざまな医療現場での利用を想定しています。

経腸栄養用シリンジポンプ
「EN-SP50」



経腸栄養用シリンジを
セットして使用します

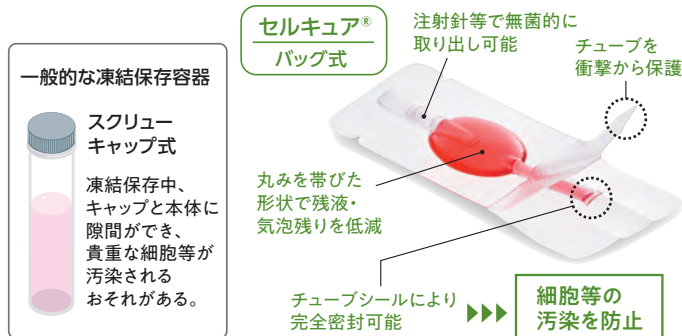
再生医療の実用化・低コスト化に貢献

凍結保存容器2.5mLタイプ「セルキュア®」

再生医療等に使用される凍結保存容器2.5mLタイプ「セルキュア®」を2021年4月5日から販売しました。

細胞凍結保存に特化して作られているため、液体窒素の中で十分な耐久性を持ち、チューブシールによる完全密封が可能で、貴重な細胞等の汚染を防ぎます。残液や気泡残りを低減するための丸みを帯びたフォルムや、チューブを衝撃から保護する形状も特長です。

「セルキュア®」は再生医療等の実用化と低コスト化への貢献が期待されています。



情報発信力を強化し利便性も向上 ホームページをリニューアルしました

今回のリニューアルでは、当社および取り扱い製品についてより理解を深めていただけるよう、コンテンツの充実を図るとともにデザインを刷新。より使いやすく、分かりやすく、快適にご覧いただけるようになりました。

新コンテンツ「課題解決」では、当社がどのような社会課題の解決に向き合っているのかを詳しく紹介しています。また、スマホやタブレットでも快適に閲覧いただけるようにレスポンシブWebデザインに対応しました。

今後もホームページを通じ、充実した情報を提供してまいります。

URL

<https://www.jms.cc>

※6月公開予定(英語版は7月公開予定)



リニューアル後のホームページ



新しくなったポイント

1 メニューもデザインも一新し、利便性が向上しました



2 新コンテンツ「課題解決」を追加



3 「サステナビリティ」のページで当社の取り組み情報を発信



グローバル体制を強化し 現地ニーズに合った製品展開を進める

Close-up

J.M.S.(K)
MEDICAL SUPPLY
CO., LTD.

近年、新興国を中心に医療機器市場が拡大しています。

その需要をさらに効率よく取り込むために、中期経営計画《GAIN-RG 2023》では、重点施策として「グローバル体制の強化」を策定。

これまで国内で培ってきた現場ごとの「ニーズに合った製品開発・生産」を世界規模で進めるとともに、各国のグループ会社と密に連携することで、より一層ブランド力を向上させていきます。

今回は創立50周年を迎え、「継承と革新」をスローガンに事業を展開する株式会社韓国メディカル・サプライを紹介します。

JMS グローバルネットワーク



当社は他社に先駆け1970年代から海外へ生産拠点・販売拠点を展開。現在、海外に5つの生産拠点と3つの販売拠点を設置し、世界90カ国以上に製品を提供しています。

株式会社韓国メディカル・サプライ

顧客ニーズに即した“地産地消”を推進
“小回りの利く”医療機器製造販売会社。

少子高齢化が日本以上のスピードで進んでいる韓国では、医療機器産業の成長が期待されています。今回は、2021年で創立50年を迎えた株式会社韓国メディカル・サプライの藤井彰一代表理事社長と安宣豊(アン ソンブン)理事に、韓国市場の動向や事業戦略、将来のビジョンについてインタビューしました。



代表理事社長 藤井 彰一

理事 安 宣豊



Q1 韓国メディカル・サプライの会社概要を教えてください。

1971年創立の医療機器製造販売会社
輸液、経腸栄養、透析が3本柱

1971年6月に創立した医療機器製造販売会社です。1973年1月にJMSが株式50%（現在80%）を取得して、資本参加しました。本社兼製造工場があるのは、ソウル市の南西に位置する加山デジタル団地。かつては九老工団と呼ばれ、ソウルを代表する工業団地でしたが、今では近代的な高層ビルが立ち並びビジネス街へと変貌しています。輸液、経腸栄養、透析を3本柱とした製品を扱っており、2020年度の売上は約230億ウォン（約23億円）でした。



現在の会社周辺の様子。加山デジタル団地と名前を変え、近代的なビルにはベンチャー企業などが多数入居する



1976年当時の九老工団3団地

Q2 韓国の医療環境はどのような状況ですか。

少子高齢化で医療の在り方が変化 医療従事者の負担軽減が急務

少子高齢化が急速に進み、2045年には高齢化率が日本を上回ると予想されています。医療費は年々増加し、国の保険収支は2年連続で赤字。医療費増加を抑制する側面からも予防の重要性が高まっています。また、看護師の都市部集中が顕著で、特に経営が悪化している地方病院の看護師不足が大きな問題です。そのため、看護師をはじめとした医療従事者の負担軽減が求められています。

輸液と経腸に大きく二分される栄養法の市場比率については、輸液が70%、経腸が30%です。日本や欧米と比べて輸液の割合が高いのが特徴ですが、韓国でも持続的に栄養が補給できる経腸の比率が徐々に高まっています。

透析分野は、欧米のメーカーが市場をリードしています。その理由としては、欧米留学で透析を学んだ医師が多いためと考えられます。

Q3 事業内容について教えてください。

現地ニーズに適した製品を“地産地消” 成長する透析市場で堅調な伸び

主力は、輸液と経腸栄養および透析の各関連機器で、自社での製造販売が60%、JMSグループ会社からの商品仕入れ販売が40%という割合になっています。また、国内販売と海外輸出の比率は9:1です。当社をはじめJMSグループの海外の生産販



輸液セット



経腸栄養セット

売拠点においては、日本を含む世界へ製品を競争力のある価格で供給する役割と、それぞれの担当地域で販売を伸ばす役割の二つがあります。韓国メディカル・サプライは後者で、自国販売を伸ばすことが役割だと考えています。

各分野を具体的にみていくと、輸液セットの製造販売数は年間1,700万本、韓国市場では20%のシェアを占めています。輸液セットのメーカーは8社あり、国内生産をしているのは当社のみです。それだけ、この分野での価格競争が激しくなっているということです。韓国では2020年に、ポリ塩化ビニルの可塑剤でDEHP*という物質の使用規制が世界に先駆けて施行され、当社もDEHPフリーの製品を作っています。今後は、誤接続や針刺し事故の防止に向けたsafety device (安全装置)の導入やISOへの対応などで安全志向を高め、高機能フィルター付き規格といった高付加価値製品も増やしていきます。

栄養セットの製造販売数は年間800万本で、国内シェアは50%を占めています。経腸栄養分野は今後の成長が期待できることから、製品ラインアップを拡充していく方針です。

年平均成長率9%で拡大しているのが透析市場です。国内の

血液透析患者数は8万6千人(2020年末)で、増加傾向にあります。当社のAVF針(血液透析用針)は高い評価を得ており、国内シェアは60%。今後も堅調な伸びが期待されます。腹膜透析の分野では、JMS(日本)から腹膜透析用接続システム「ZERO SYSTEM®」を輸入し、韓国の大手製薬会社・保寧(ポリオン)製薬に供給しています。将来的には、就寝中に自動的に透析を行うAPD装置の輸入・販売も視野に入れていきます。その他、透析装置の新モデルや関連製品も上市予定です。

※DEHP…フタル酸ジ2-エチルヘキシル。可塑剤として塩化ビニル製品などに添加される。



製造工場

Q4 新型コロナウイルスの影響はありましたか。

ニューノーマル時代に即した事業ポートフォリオを再構築

コロナ禍は、私たちの生活様式を大きく変えました。韓国でも、新型コロナウイルスの感染憂慮から通院治療が減少しています。そのため、主力分野である輸液セットの需要が減少。ニューノーマル時代の到来により、外来から在宅へ、接触から非

接触へと、より安全・安心な医療が求められています。今後は時代のニーズに対応した事業ポートフォリオの再構築を進めていきます。

Q5 JMSグループ会社間の連携はいかがですか。

グループ資源を最大限に有効活用 商品や資材を最適地から仕入れる

JMS製品は、海外のどの生産拠点で製造しても高品質だと自負しています。フィリピンやシンガポール、大連などの最適生産地から、価格競争力のある商品を仕入れて販売する。また、購入資材も各国の協力を得て、ベストな価格でベストな品質のものを最適地から仕入れる。このようにグループ資源を最大限に有効活用して「素早く安定的に医療機器を供給していく」ことが、私たちの使命だと考えています。

Q6 経腸栄養市場に対してどのようにアプローチしますか。

生産コストを抑えて品質を向上 競合他社との価格競争に備える

今後成長が見込まれている経腸栄養市場には、海外も含め参入するメーカーが増えてくと予想されます。競合他社が増えれば、価格競争になるのは必然。経腸栄養セットのパーツ組立から包装までの一連の工程をオートメーション化することで、生産コストを抑え、製品品質の安定化を図ります。製造設備は2021年2月に日本から輸入・設置しており、日本から設備調整人員が入国でき次第、本格稼働する予定です。



経腸栄養セット自動組立機

Q7

今後の事業戦略と展望をお聞かせください。

「継承と革新」をスローガンに “小回りの利く”会社を目指す

2021年6月に創立50年を迎え、スローガンに「継承と革新」を掲げました。当社には、樹脂成形や加工、組み立て技術など、長年培ってきた製造ノウハウがあります。これに新技術を導入していき、新たな価値を持つ製商品品を供給していきたいと考えています。目指す姿は、市場の顧客ニーズに対応できる“小回りの利く”医療機器製造販売会社です。

Column

▶ 日本や各国拠点と連携しシナジー効果を高める

韓国に赴任して20年が経ちます。韓国メディカル・サプライでは、製造や販売、管理など、各部署に幅広く関わる調整役を担当。JMSグループの方針を現地社員と共有したり、韓国市場の動向や予測をJMS本社とシェアしたりするのも重要な業務です。

現地社員との対話には、異文化コミュニケーション法の一つである「D.I.E法」を用いています。Description(描写)、Interpretation(解釈)、Evaluation(評価)の頭文字を取ったもので、相手の理

解を深める手法です。目の前で起こっている事象の良し悪しをすぐに評価するのではなく、双方にとってどんな意味を持つのか解釈し、それに基づいて双方の立場から判断するように心掛けています。

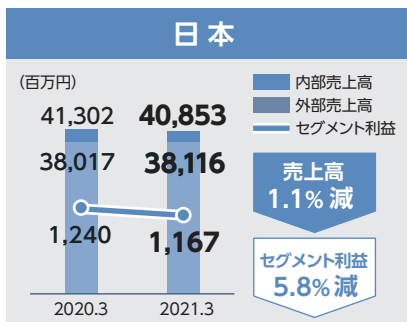
当社は、輸出よりも韓国での国内販売の割合が大きい会社です。今後は、国内販売量を増やしていくと同時に、JMSグループの資源を有効活用し、日本や各国の拠点とのシナジー効果を高めていきたいと思っています。



企画部部长 中川 正一

■ 所在地別

(注) セグメント利益は、経常利益ベースの数値です。



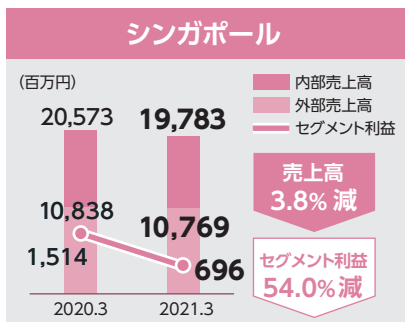
売上高 408億53百万円

[外部顧客への売上高 381億16百万円]

中国向けの血液透析装置のほか、薬剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド」が増加したものの、輸液セットが減少しました。

セグメント利益 11億67百万円

販売費が減少したものの、減収影響や商品仕入単価の上昇により減少しました。



売上高 197億83百万円

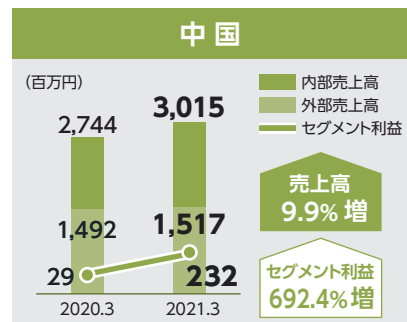
[外部顧客への売上高 107億69百万円]

北米向けのAVF針(血液透析用針)や成分献血用回路が減少しました。

セグメント利益 6億96百万円

減収影響に加え為替差損の計上により減少しました。

*シンガポールは、生産体制を相互に補充し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでいます。



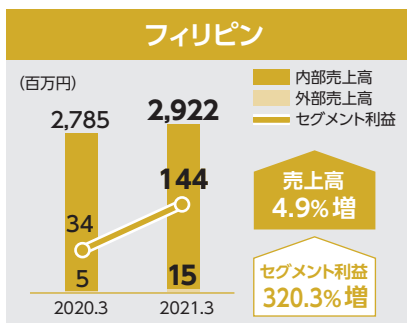
売上高 30億15百万円

[外部顧客への売上高 15億17百万円]

日本向けの血液浄化回路や輸液輸血関連用品が増加しました。

セグメント利益 2億32百万円

新製品追加等に伴う増収増益効果により増加しました。



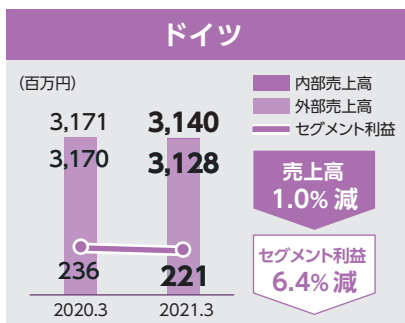
売上高 29億22百万円

[外部顧客への売上高 15百万円]

北米向けの成分献血用回路が増加しました。

セグメント利益 1億44百万円

販売及び生産の拡大により増加しました。



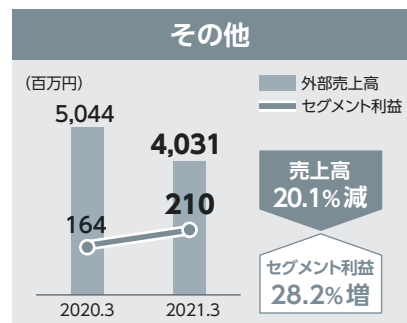
売上高 31億40百万円

[外部顧客への売上高 31億28百万円]

血液バッグが減少しました。

セグメント利益 2億21百万円

為替差損の計上により減少しました。



売上高 40億31百万円

[外部顧客への売上高 40億31百万円]

セグメント利益 2億10百万円

*その他は、国内子会社及びアメリカ、韓国、タイの現地法人の事業活動を含んでいます。

■ システム別売上高

輸液・栄養領域

売上高 **225億56**百万円

(百万円)

22,626 22,556 **0.3%減**

2020.3 2021.3

薬剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド」が増加したものの、輸液セットが減少しました。

透析領域

売上高 **184億8**百万円

(百万円)

18,693 18,408 **1.5%減**

2020.3 2021.3

ダイアライザー（人工腎臓）に加え、中国の血液透析装置が増加したものの、北米のAVF針が減少しました。

外科治療領域

売上高 **41億15**百万円

(百万円)

4,277 4,115 **3.8%減**

2020.3 2021.3

人工心臓装置が増加したものの、人工心臓用回路やペースメーカが減少しました。

血液・細胞領域

売上高 **111億81**百万円

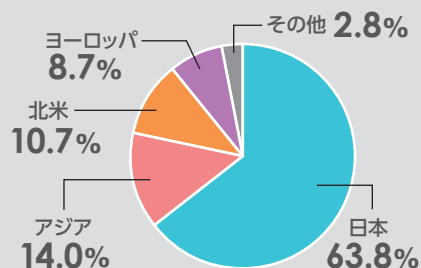
(百万円)

11,717 11,181 **4.6%減**

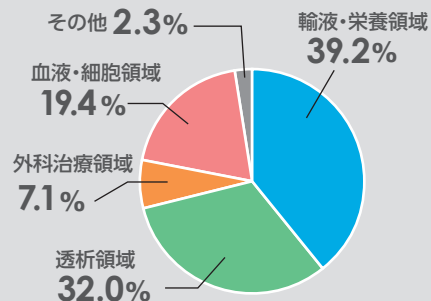
2020.3 2021.3

白血球除去フィルター付血液バッグは安定的に推移したものの、中東の血液バッグや北米の成分献血用回路が減少しました。

■ 地域別売上高構成比



■ システム別売上高構成比



輸液・栄養領域

輸液セット、注射針、注射筒、薬剤調製・投与クローズドシステム、経腸栄養関連製品、摂食嚥下関連用品、輸液ポンプ、医療用手袋、不織布製品、他

透析領域

血液透析装置、ダイアライザー、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液、他

外科治療領域

膜型人工肺、人工心臓装置、人工心臓用回路、ペースメーカ、血管造影用カテーテル、AED（自動体外式除細動器）、他

血液・細胞領域

血液バッグ、成分献血用回路、血液成分分離バッグ、再生医療関連製品、他

財務諸表《連結》

■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 2020年3月31日現在	当連結会計年度 2021年3月31日現在
《資産の部》		
流動資産	37,088	① 38,983
現金及び預金	5,765	5,968
受取手形及び売掛金	15,683	16,415
たな卸資産	14,452	15,687
その他	1,187	912
固定資産	29,479	30,101
有形固定資産	23,970	24,105
無形固定資産	538	692
投資その他の資産	4,969	5,304
資産合計	66,567	69,085
《負債の部》		
流動負債	21,895	22,545
固定負債	12,201	11,546
負債合計	34,096	34,091
《純資産の部》		
株主資本	33,435	34,772
その他の包括利益累計額	△1,098	69
非支配株主持分	133	151
純資産合計	32,470	② 34,993
負債純資産合計	66,567	69,085

▶▶▶ POINT 解説

- ① 流動資産**〔前連結会計年度末に比べ18億95百万円増加〕
・新型コロナウイルス感染症拡大に備えて商品及び製品が増加しました。
- ② 純資産**〔前連結会計年度末に比べ25億22百万円増加〕
・当期純利益の計上により利益剰余金が増加しました。
- ③ 売上高**〔前連結会計年度に比べ9億90百万円減少〕
・地域別ではアジアで増加したものの北米で減少、システム別では血液・細胞領域が減少し減収となりました。
- ④ 営業利益**〔前連結会計年度に比べ1億87百万円減少〕
・活動自粛に伴い販売費は減少したものの、減収影響に加え商品仕入単価の上昇により減益となりました。
- ⑤ 経常利益**〔前連結会計年度に比べ6億58百万円減少〕
・持分法投資利益の減少や為替差損の計上により減少し減益となりました。

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (2019年4月1日～ 2020年3月31日)	当連結会計年度 (2020年4月1日～ 2021年3月31日)
売上高	58,569	③ 57,578
売上原価	42,931	42,483
売上総利益	15,638	15,095
販売費及び一般管理費	13,323	12,968
営業利益	2,314	④ 2,127
営業外収益	594	376
営業外費用	236	490
経常利益	2,672	⑤ 2,013
特別利益	69	362
特別損失	174	153
税金等調整前当期純利益	2,567	2,222
法人税等	579	480
当期純利益	1,987	1,742
非支配株主に帰属する当期純利益	10	6
親会社株主に帰属する当期純利益	1,977	1,736

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (2019年4月1日～ 2020年3月31日)	当連結会計年度 (2020年4月1日～ 2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,565	⑥ 3,739
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,340	△3,251
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,187	⑦ △535
現金及び現金同等物に係る換算差額	△246	261
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,208	214
現金及び現金同等物の期首残高	7,216	6,008
現金及び現金同等物の期末残高	6,008	6,222

▶▶▶ POINT 解説

- ⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー**〔前連結会計年度に比べ1億73百万円増加〕
・たな卸資産の変動により増加しました。
- ⑦ 財務活動によるキャッシュ・フロー**〔前連結会計年度に比べ6億51百万円減少〕
・借入金の収支差額により減少しました。

(注)金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

会社情報

◎コーポレートデータ

(2021年3月31日現在)

設立	1965年(昭和40年)6月12日
資本金	7,411,014,445円
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:7702)
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売 及び輸出並びに輸入
従業員数	1,620人(グループ総数 5,604人)

◎役員

(2021年6月23日現在)

取締役	代表取締役社長	奥 窪 宏 章
	専務取締役	栗 根 康 浩
	常務取締役	桂 龍 司
	取締役	佐 藤 雅 文
	取締役	柳 田 正 吾
	社外取締役	池 村 和 朗
	社外取締役	石 坂 昌 三
監査役	常勤監査役	近 藤 良 夫
	社外監査役	水 戸 晃
	社外監査役	佐 上 芳 春

国内ネットワーク

株式会社ジェイ・エム・エス

- 【本 社】 広島本社／東京本社
- 【支社・営業所】 東日本支社／中日本支社／西日本支社、営業所27カ所
- 【工 場】 三次工場／出雲工場／千代田工場
- 【子 会 社】 ジェイ・エム・エス・サービス株式会社《医療機器の修理等》
- 【関連会社】 株式会社ジェイ・オー・ファーマ《医薬品の製造・販売》

海外ネットワーク

- 【子 会 社】 株式会社 韓国メディカル・サプライ《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE.LTD. 《製造・販売》
- 大連ジェイ・エム・エス医療器具有限公司《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション《販売》
- パイオニック・メディツインテックGmbH《販売》
- PT. ジェイ・エム・エス・パタム《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・タイランド CO.,LTD.《販売》

◎株式等の状況

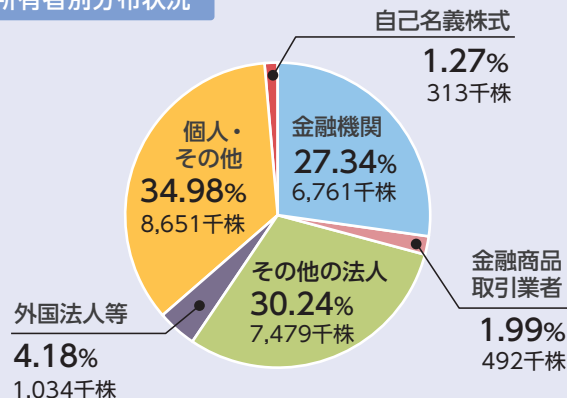
(2021年3月31日現在)

- ◇発行可能株式総数 …………… 65,000,000株
- ◇発行済株式総数 …………… 24,733,466株
(自己株式313,201株を含む)
- ◇株主数 …………… 8,897名
- ◇大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社カネカ	2,473	10.12
一般財団法人土谷記念医学振興基金	1,900	7.78
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,158	4.74
土谷 佐枝子	1,008	4.12
社会福祉法人千寿会	1,000	4.09
株式会社広島銀行	895	3.66
第一生命保険株式会社	861	3.52
大下産業株式会社	571	2.33
JMS共栄会	527	2.15
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	413	1.69

(注)持株比率は、自己株式(313,201株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況



株主メモ 証券コード: 7702

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行業
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
Tel.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

公告の方法 電子公告とする。
(<https://www.jms.cc/ir/denshi.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない
場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

ご注意

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶ <https://www.jms.cc> JMS 検索



株式会社 ジェイ・エム・エス

広島本社 〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社 〒140-0013 東京都品川区南大井一丁目13番5号 新南大井ビル
TEL 03-6404-0600 FAX 03-6404-0610

【表紙デザイン】テーマ「世界をハートの形に」

ハートの形の地球を囲むように手をとる二人をモチーフ。心のつながりで、支え合う気持ちで、みんなの住むこの世界が幸せで包まれるよう願うイメージです。JMSもその温かい世界を作る役割を担っていることを表現しています。



UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを
採用しています。